

14, バラ科の巨木 Rosaceae

バラ科の巨木は以下に分類する。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| A エドヒガンの巨木 | E カスミザクラの巨木 | J アンズの巨木 |
| A-1 エドヒガンの巨木 | F サトザクラの巨木 | K ヤマナシの巨木 |
| A-2 シダレザクラの巨木 | F-1 ソメイヨシノの巨木 | L ハナカイドウの巨木 |
| B ヤマザクラの巨木 | F-2 サトザクラの巨木 | M オオウラジロノキの巨木 |
| C オオヤマザクラの巨木 | G イヌザクラの巨木 | N ボケの巨木 |
| D オオシマザクラの巨木 | H ウメの巨木 | O ナナカマドの巨木 |
| | I バクチノキの巨木 | |

14-A-1 エドヒガン(江戸彼岸)の巨木

バラ科サクラ属 *Prunus pendula* form. *ascendens*

本州から九州の山地に自生し、アズマヒガン、ウバヒガンとも呼ばれる。シダレザクラはエドヒガンの園芸品種で、巨木分類では分類する。ソメイヨシノは本種とオオシマザクラの交配種として江戸時代に作られたもの。

主なエドヒガンの巨木位置図



■エドヒガンの巨木評価基準

AA 幹周おおむね 9m 以上の単幹樹、樹形壮大で、花付き良好なエドヒガンの巨木。

A 幹周おおむね 6～9m の単幹樹、樹形壮大で、花付き良好なエドヒガンの巨木。

B 幹周おおむね 4～6m の単幹樹、又は同等評価の分岐幹を有し、花付き良好なエドヒガンの巨木。

C B 評価以下のエドヒガンの巨木。

■主なエドヒガンの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
AA	山高神代桜 写真 E-001	10.6m	13m	山梨県北杜市武川町山高	国
AA	根尾谷淡墨桜 写真 E-002	9.2m	17.3m	岐阜県本巣市根尾板所	国
A	奥十曾のエドヒガン 写真 E-003	株周 M10.8m(1.3m 2009)	28m	鹿児島県伊佐市大口小木原奥十曾	市
A	草岡の大明神ザクラ 写真 E-004	M7.08m(1.3m 2014)	17m	山形県長井市草岡	県
A	臥龍桜 写真 E-005	7.3m	15m	岐阜県高山市一之宮町	国
A	醍醐桜 写真 E-006	7.1m	18m	岡山県真庭市別所	県
A	石割桜 写真 E-007	5.5m	15m	岩手県盛岡市内丸	国
A	三隅大平桜 写真 E-008	6.3m	17m	島根県那賀郡三隅町矢原	国
A	戸津辺の桜 写真 E-009	M6.58m(1.3m 2010)	18m	福島県東白川郡矢祭町大字中石井	県
B	上津の姥桜 写真 E-010	10.6m(分岐幹合計周)	15m	群馬県利根郡みなかみ町上津	県
B	伊佐沢の久保桜 写真 E-011	9.0m(半壊)	16m	山形県長井市上伊佐沢	国
B	中曽根のエドヒガン 写真 E-012	8.2m(2 分岐合計周)	20m	長野県上伊那郡箕輪町中曽根	県
B	薬師ザクラ 写真 E-013	M8.2m(1.3m 2007)	10m	山形県西置賜郡白鷹町高玉	県
B	塩生のエドヒガン 写真 E-014	M7.3m(1.3m 2010)	18m	長野県長野市塩生日向	市
B	子守堂の桜 写真 E-015	7.2m(根元広がり)	19m	山形県西置賜郡白鷹町鮎貝	町
B	おまき桜 写真 E-016	7.1m	15m	兵庫県豊岡市竹野町椒字中村	市
B	塩ノ崎の大桜 写真 E-017	7.0m(根元 2 分岐)	18m	福島県本宮市白岩塩ノ崎	村
B	東麻生の種蒔桜 写真 E-018	6.9m(分岐幹合計周)	13m	福島県会津若松市北会津町東麻生	なし
B	米沢の千歳桜 写真 E-019	6.7m	10m	福島県大沼郡会津美里町米田	県
B	殿入ザクラ 写真 E-020	6.6m	16m	山形県西置賜郡白鷹町浅立	町
B	長姫のエドヒガン 写真 E-021	6.4m	20m	長野県飯田市追手町 2 丁目	県

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
B	祭田のサクラ 写真 E-022	6.6m	22m	福島県二本松市太田字祭田	町
B	北殿のエドヒガン 写真 E-023	6.5m	20m	長野県上伊那郡南箕輪村北殿	村
B	南成田の大桜 写真 E-024	6.4m	15m	福島県田村郡三春町南成田	町
B	桃前のサクラ 写真 E-025	6.2m	15m	福島県二本松市戸沢桃前	町
B	山中の伊三郎ザクラ 写真 E-026	6.0m	29m	福島県二本松市西勝田	なし
B	寺子のエドヒガン 写真 E-027	6.5m	16m	栃木県那須塩原市寺子	市
B	樽見の大桜 写真 E-028	5.95m	20m	兵庫県養父市大屋町樽見	国
B	荘川桜 北幹 写真 E-029	5.9m	20m	岐阜県高山市荘川町中野	県
B	荘川桜 南幹 写真 E-030	4.9m	21m	〃	県
B	発知のヒガンザクラ 写真 E-031	5.2m	12m	群馬県沼田市中発知町	県
B	明日の大桜 写真 E-032	5.0m	13m	富山県黒部市宇奈月町明日	県
B	宇木の千歳桜 写真 E-033	M5.71m(1.3m 2009)	20m	長野県下高井郡山ノ内町夜間瀬	県
B	ひょうたん桜 写真 E-034	4.8m	23m	高知県吾川郡仁淀川町桜	県
B	駒つなぎの桜 写真 E-035	5.6m	14m	長野県下伊那郡阿智村里	村
B	ぜんまい桜 写真 E-036	4.8m	23m	福井県越前市今立町大滝	県
B	桜丸御殿跡の夫婦桜 写真 E-037	株周 10.0m	12m	長野県飯田市追手町 2 丁目	市
B	筆甫の親王桜 写真 E-038	M6.6m(上部 0.6m 2010)	18m	宮城県伊具郡丸森町筆甫字和田	町
B	下蚊屋明神のサクラ 写真 E-039	5.9m	20m	鳥取県日野郡江府町下蚊屋	県
B	平田の馬場桜 写真 E-040	7.1m	15m	福島県石川郡平田村上蓮田	村
B	雲峰寺の桜 写真 E-041	6.0m	20m	山梨県甲州市上荻原	県
B	素桜神社の神代桜 写真 E-042	11.3m(分岐幹合計周)	10m	長野県長野市泉平素桜	国
B	石部桜 写真 E-043	株周 8.0m(根元 3 分岐)	11m	福島県会津若松市一箕町八幡	市
B	小長石の駒桜 写真 E-044	5.4m	19m	福島県伊達郡川俣町秋山字小長石	町
B	向野のエドヒガン 写真 E-045	11.4m(分岐幹合計周)	20m	富山県南砺市野口向野	なし
B	小奴可の要害桜 写真 E-046	5.7m	17m	広島県庄原市東城畑小奴可字要害	県

評価	巨木名称	幹 周	樹高	所 在 地	天然記念物 指定
B	金谷の城山桜 写真 E-047	5.8m	15m	島根県美濃郡美都町山本	県
B	北郷早坂の東彼岸桜 写真 E-048	6.7m	15m	宮城県栗原市鶯沢北郷早坂	町
B	大日山の桜 写真 E-049	5.9m	17m	岩手県遠野市遠野町 日枝神社	市
B	春日神明神社の彼岸桜 写真 E-050	M6.15m(1.3m 2008)	20m	岐阜県郡上市八幡町吉野字名津佐	町
B	本村の関の桜 写真 E-051	5.3m	15m	山梨県北巨摩郡白州町横手本村	町
B	王仁塚の桜 写真 E-052	3.3m	12m	山梨県韮崎市神山町北宮地	市
B	山妻有のサクラ 写真 E-053	株周 M7.85m(1.0m 2015)	10m	群馬県沼田市利根町追貝	市
C	細越の種まき桜 写真 E-054	9.0m(半壊)	10m	福島県河沼郡柳津町細八	なし
C	下條の普賢象桜 写真 E-055	8.6m(半壊)	10m	福島県耶麻郡西会津町野沢下條	町
C	馬ノ墓の種蒔桜 写真 E-056	6.8m(分岐幹合計周)	15m	福島県大沼郡会津美里町旭杉原	なし
C	行田の彼岸桜 写真 E-057	6.9m(半壊)	10m	群馬県安中市松井田町行田	市
C	愛宕神社の清秀桜 写真 E-058	6.7m(半壊)	10m	長野県飯田市愛宕町	市
C	下久保のエドヒガンザクラ 写真 E-059	6.7m(分岐幹合計周)	19m	徳島県三好市井川町井内東	市
C	諏訪山の桜 写真 E-060	6.6m(半壊)	20m	福島県福島市松川町字諏訪山	なし
C	高田桜 写真 E-061	6.3m(根元広がり)	18m	福島県石川郡石川町高田	県
C	別子山のエドヒガン 写真 E-062	12.4m(5 分岐幹合計周)	25m	愛媛県新居浜市別子山	市
C	相俣のさかさザクラ 写真 E-063	6.1m(分岐幹合計周)	13m	群馬県利根郡みなかみ町相俣	県
C	お達磨のサクラ A 株 写真 E-064	5.8m	15m	山形県東村山郡中山町達磨寺	県
C	お達磨のサクラ B 株 写真 E-065	5.2m	10m	〃	県
C	鳥谷脇の桜 写真 E-066	6.9m(古木)	16m	岩手県北上市和賀町横川字鳥谷脇	市
C	高顕寺の桜 写真 E-067	5.7m	13m	長野県須坂市仁礼	市
C	延命地蔵の桜 写真 E-068	5.6m	12m	長野県須坂市豊丘新田	市
C	女形谷のサクラ 写真 E-069	M5.1m(1.3m 2008)	10m	福井県坂井市丸岡町女形谷	県
C	岩戸蒲桜 写真 E-070	6.6m(ひこばえ)	14m	埼玉県北本市石戸宿 東光寺	国
C	北館桜 写真 E-071	5.7m	19m	岩手県胆沢郡衣川村下衣川	村



写真 E-001 日本一のエドヒガン やまたかじんだいぎく 山高神代桜

神代桜があるのは、実相寺境内の南側。境内は桜で埋め尽くされ、神代桜の実生から育てられた桜や、全国の有名な桜も植えられ、まさに桜の寺である。寺の背後に回ると、ハクモクレンの巨木があるが、主役が大き過ぎて、これも問題にならないようだ。

伝説によれば、今から 1800 年前、日本武尊が東夷征伐の帰路にこの地に留り、桜を記念樹として植えたという。神代の時代に植えられた桜から、神代桜と呼ばれるようになったという。日本最古の桜ともいえよう。

1970 年代の調査時(下写真)には、主幹の上に屋根が置かれていたが、現在は取り払われている。主幹のほとんどは枯死し、かろうじて細い幹から伸びる樹皮で生延びている。しかし、花付きはよく、これ程の老木にも関わらず、見事に花を付ける様には驚愕する。

1970 年代に撮影▶



◀境内側から見た主幹。
主幹のほとんど残骸の
ような姿になっている
が、側幹の花付きは見
事である。





写真 E-002

日本一の淡墨桜 ねおだに うすずみざくら 根尾谷の淡墨桜

幹周 9.2m、樹高 17.3m、エドヒガンとしては山高神代桜と肩を並べる巨木で、日本三大桜の一つに数えられる。咲き始めは淡いピンク色で、散り際に淡い墨色を帯びることから淡墨桜の名前があり、淡墨桜としては日本一の桜。園芸種の薄墨桜とは別物である。樹齢の推定は 1500 年というとても古いもの。しかし、近年幾度となく枯死の危機に瀕してきた。

最初は 1948 年(昭和 23)に調査が行われた際、三年以内に枯死するとの判断であった。これを知った地元の医師・不破成隆氏が奔走し、翌年 238 本のヤマザクラの若根を継木、1950 年春に見事に再生した。

次は 1959 年(昭和 34)の伊勢湾台風で甚大な被害に遭い、花を付けなくなってしまった。1967 年、この地を作家・宇野千代が訪れ、淡墨桜の惨状を憂い、翌年の 4 月、雑誌「太陽」に「淡墨桜」を寄稿すると同時に、岐阜県知事宛に手紙を書いた。県知事・平野三郎は心を動かされ、県文化審議会に保護再生をはかり、岐阜大学の堀武義氏が診断し、保護策がまとめられたのである。その結果、再び花を付ける事に成功した。

現在はその保護策が続けられ、毎年美しい花をいっぱい付け、多くの花見客が押寄せている。

主幹後部は半壊状態であるが、巨大な分岐幹は多くの支柱に支えられて、何とか倒木を免れている。幹は苔むし、樹齢を感じさせる圧倒的な存在感がある。

エドヒガンの淡墨桜としては稀に見る存在である。



▲淡墨桜全景。散り際に、花の淡い墨色は日本の情緒がある。



◀宇野千代が寄稿した「太陽」と本文。



写真 E-003 日本一の根上りエドヒガン おくじゅっそう 奥十曾のエドヒガン

1977年8月、地元の植物研究家・杉本正流氏によって発見されたエドヒガンの巨木である。標高560m、岩屋谷の国有林内にあり、もともと地元の古老の話として、巨大な桜があると知られていた。杉本氏は、道なき奥十曾の深山に分け入り、執念で目指す巨大桜を発見したという。

現在は林道が近くまで開通し、十曾池より6キロ程登り、駐車場より200m山道の階段をたどると、山の斜面に巨大な根を露出して立つ。完全な根上りである。しかし、幹周は単純に地上1.3mを計測して10.8mあり、これまで最大とされていた山高神代桜の幹周10.6mを上回り、日本で最大のエドヒガンとされた。しかし、M式測定法では、根上り樹形として扱い、株周M10.8m(1.3m)となる。このような根上のエドヒガンは全国的にも例がなく、単独で日本一ということになった。又、エドヒガンの巨木としては日本最南端に位置するもので、植物学的にも貴重な存在である。

根元には高さ1.2mの空洞があり、地上6mで2分岐する。西幹は切断され、主幹は上部で2分岐、天高く枝葉を広げている。地上3m付近のももとの幹周はおよそ4m程である。



写真 E-004 くさおか だいまようじんざくら 草岡の大明神桜

巨木DBでは幹周10.9mとされるが、現在の主幹は半壊して、M7.08m。それでも見事に重厚な主幹を呈していて、日本有数のエドヒガンである。花付きもよく、季節になると大勢の花見客が訪れる一大観光地でもある。



◀花の頃の大明神桜



写真 E-005 ^{がりゅうざくら} 臥龍桜

古くから飛騨の名桜として知られる。南北に 30m に広がる樹形は、大幢寺の道仙和尚が命名したように、まさに龍が臥せるようである。根元近くから 4 本の太い幹が立上がり、その内の一本は一度地面につき、再び立上がる伏条のような樹形。写真は朝霧に霞む、満開の臥龍桜である。



写真 E-006 ^{だいござくら} 醍醐桜

醍醐桜は、その名前に恥じない日本を代表する名桜である。確かに、幹周 7.1m のエドヒガンは、幹周 10.6m の山高神代桜に及ばないものの、小高い丘の上に立つ立地、樹勢の旺盛さと樹形の見事さ、由緒など、これ以上見事なエドヒガンを他に知らない。

1332 年(元弘 2)3 月、後醍醐天皇が京の都を追われ、隠岐に流される際、この地に立ち寄って桜を植えたといえらるることから、醍醐桜と命名されたという。この伝説から樹齢 700 年以上とされる。

地元では大桜と呼び、吉念寺集落の姓はほとんど「春木」ということだ。醍醐桜との関わりが深かったことを物語る。この集落はかつて和紙の里として栄えてきた。当地で生産された紙は大蔵省に納められ、紙幣になったという。今も原料のミツマタが醍醐桜の周辺に植えられ、桜の花と同時期に愛らしい黄色の花を咲かせている。

花の頃はライトアップもされ(下写真)、幻想的な醍醐桜を堪能できる。



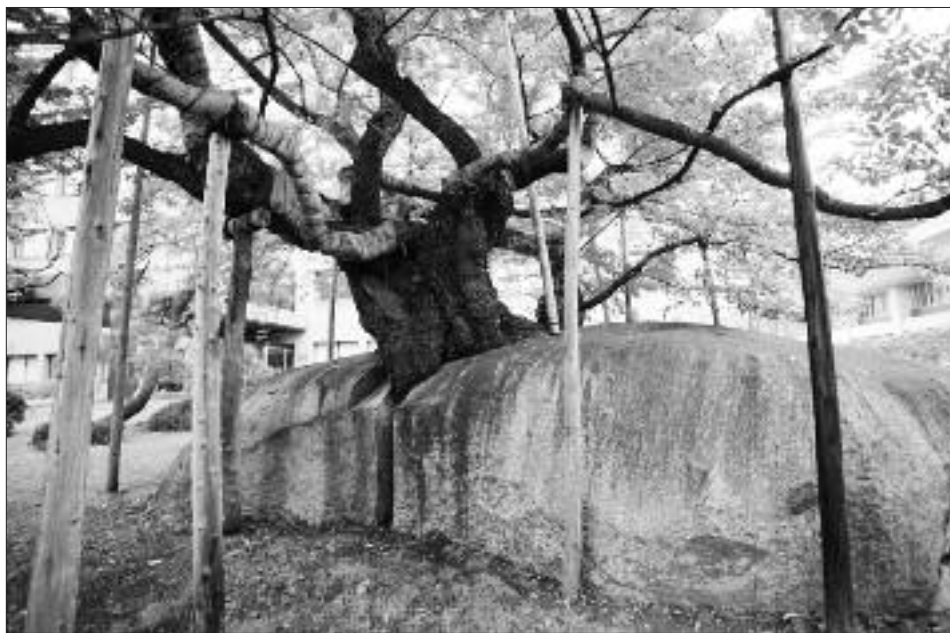


写真 E-007
いしわりざくら
石割桜

周囲 22m もあるという巨大な岩の中心を真二つに切裂いて、そこから幹周 4.3m もある桜が育っている。巨石の形から、偶然割目に桜が生えたのではなく、意図して植えられたものと判断される。当時の藩主は、百年後の姿を描いて造園計画を立てるといふ、壮大な夢を抱いていた事が伺える貴重なエドヒガンであるといえよう。



写真 E-008
みすみおひらざくら
三隅大平桜

エドヒガンとヤマザクラの雑種といわれる。高台にある立地は最適である。かつては支幹が 11 本もあり、壮大な樹形を呈していた。現在は台風等で大きな支幹が折れる等し、4 本の幹が残っているが、それでも見事な樹形である。近年、花付きが悪くなったが、見事な主幹を見る限り、まだまだ希有なエドヒガンであるといえよう。

(写真・Web 画像)



写真 E-009
とつべざくら
戸津辺の桜

この桜は古くからの旧道沿いに位置し、行き交う人々に安らぎを与え、農家ではつばみの膨らみや、開花の様子を見て農作業の準備を行ったと伝えられる。

畑地の高台に立ち、かつて「上の屋敷」と呼ばれていた所で、身分の高い人の屋敷にあったと思われる。近郷では一番先に花をつけ、遠く久慈川の対岸からもよく望む事ができる壮大な大桜で、地上 1~2m で大小 5 本の幹が斜上する。枝張りには 27m にも及び、先端は垂れるように伸び、これ程の巨木であるにもかかわらずほとんど損傷がないことは驚くべき事である。

近年まであまり地元の人も関心が無かったが、マスコミに取り上げられるようになって、花見客が押寄せられるようになり、地元の人々の関心が高まり、周辺を整備するようになったと言う事であった。

全国にエドヒガンの巨木の多い中、ほとんど損傷のない立派な樹形のエドヒガンは、西の醍醐桜に匹敵する見事なものである。





写真 E-010 ^{かみづ うばざくら} 上津の姥桜

巨木 DB の幹周 10.6m は分岐幹合計周。道路際に立ち、姥桜にまつわる伝承がある。
(写真・Web 画像)



写真 E-011 ^{いさざわ くぼざくら} 伊佐沢の久保桜

巨木 DB では幹周 9.0m とされ、根尾谷の淡墨桜と並び称されていた。現在は半壊し、もともと根元での分岐幹であった。現在は多くの支柱で支えられ、かろうじて花を付ける。しかし、地元では毎年花祭りが開催され、多くの花見客で賑わっている。



写真 E-012 ^{なかぞね} 中曽根のエドヒガン

地上 1m で 2 分岐、幹周 8.2m は合計周で、M5.1m 程。しかし、主幹の雰囲気は見事で、山並を背景にして咲く淡いピンクの花は実に美しい風景である。



写真 E-013 ^{やくしざくら} 薬師桜

釜の越桜の北側、道路沿いに薬師堂があり、その横に立つ。主幹上部が破損し、まるで巨岩の上に桜が咲くような状態になった珍しい樹形。



写真 E-014 ^{しょうぶ} 塩生のエドヒガン

この地は、かつて戸隠に向かう巡礼者が一休みした場所で、巡礼桜とも呼ばれている。根元より 3 分岐する樹形。古株の痕跡が見られ、かつては 5 分岐する大桜であった。幹周も 7.3m とあることから、この当時の測定値であろうか。3 本の幹は斜上し、東西幹の先端は切断され、やや衰弱があるようだが花付きはよい。



写真 E-015 ^{こもりどう さくら} 子守堂の桜

地元では樹齢千年を越えると言われている古木。根元が大きく広がり、幹周を大きくしている。
(写真・Web 画像)



写真 E-016 ^{ざくら} おまき桜

県道沿いに立つ古木。この桜が咲くと、麻の種蒔きを始した事による。(写真・谷田元彦)



写真 E-017 ^{しお きき おおざくら} 塩ノ崎の大桜

大桜は道路より 15m 程高い畑地に立ち、墓標として植えられたもの。享保年間(1735 年頃)に作成された絵図面に、すでにこの桜の大木が記されている。樹齢 600 年というから、樹齢 300 年頃の記録である。



▲写真 E-018 ^{ひがしあそう たねまきざくら} 東麻生の種時桜

共同墓地に立つ墓守桜。
(写真・Web 画像)



▲写真 E-021 ^{おさひめ} 長姫のエドヒガン

かつて長姫高校があったことから長姫のエドヒガンと呼ばれる。飯田城の家老・安富氏の屋敷があり「安富桜」とも。寛文12年(1672)に植樹したと伝えられ、樹齢350年である。



▲写真 E-019 ^{よねざわ ちとせざくら} 米沢の千歳桜

米沢の千歳桜は広々とした平野の中に立つ珍しい桜。この桜には、千歳と盛勝との悲しい物語が伝えられている。千歳の供養のために植えられたと伝えられ、今から700年前の話である。



▲写真 E-022 ^{まつりだ} 祭田のサクラ

桜の所有者である大内家は、道路から細い道を登った所にあり、母屋の入口あたり、急な斜面の境に桜が立つ見事な単幹桜。

◀写真 E-024 ^{みなみなりた おおざくら} 南成田の大桜

小高い丘陵の裾野に立つ、お椀を伏せたような安定感のある美しい樹形の一本桜。

写真 E-025▶ ^{ももぜん} 桃前のサクラ

桃前集落の入口、道路沿いに立つ古木。
(写真・Web 画像)



▲写真 E-020 ^{どのいり} 殿入ザクラ

米沢藩主が巡察の折に立寄ったという伝承から命名されたという。
(写真・Web 画像)



▲写真 E-023 ^{きたどの} 北殿のエドヒガン

元文5年(1740)銘の庚申塚が建てられた時に記念植樹されたと伝えられ、樹齢270年。老樹の風格が漂う立派な桜である。

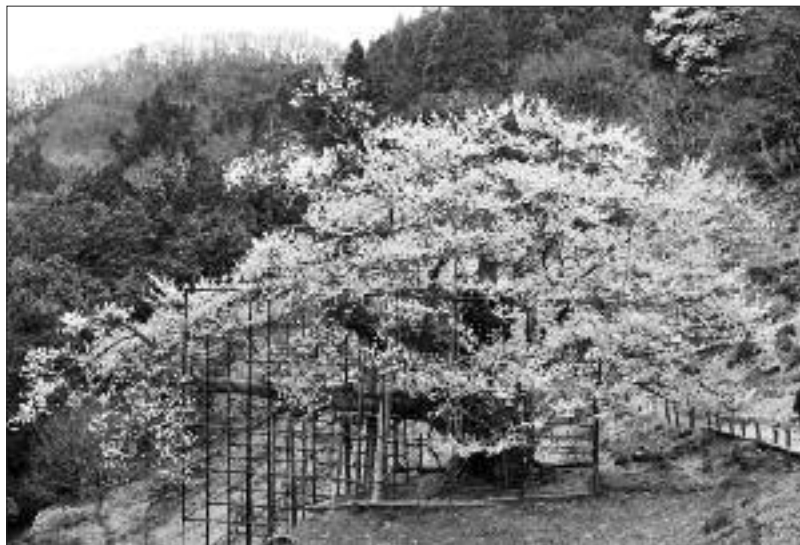




▲写真 E-026

やまなか いさぶろう
山中の伊三郎ザクラ

明堂集落の中央に立つ、地上
3m 付近から大きく 2 分岐する
樹形。(写真・Web 画像)



▲写真 E-028 ^{たるみ おおざくら}
樽見の大桜

全盛期は江戸時代の元禄頃と言われ、枝張りは 36m 四方に及ぶ壮大な大桜であ
った。樹齢は 1000 年ともいわれ、日本の巨桜の中でも最も古い巨木の一つである。
主幹は地上 4m で 4 分岐し、谷側の幹は水平に伸び、主幹内部は空洞化している。



▲写真 E-027

てらこ
寺子のエドヒガン

墓地の中央に立つ事等から、墓守桜
ではないかと思われる。ここに眠っ
ている先人達にも、花見を楽しんでも
らおうという粋な心遣いがにくい。



▲写真 E-029

しょうがわざくら
莊川桜(北幹) 照蓮寺の桜

御母衣ダムによって水没する地域に二本のエドヒガンの巨木があった。照蓮寺と光輪寺の桜
である。1960 年に移植に成功した。



▲写真 E-030

しょうがわざくら
莊川桜(南幹) 光輪寺の桜



◀写真 E-031

ほつち
発知のヒガンザクラ

中発知の小高い丘
の上に立つエドヒ
ガンの巨木。

写真 E-032▶

あけび おおざくら
明日の大桜

法福寺境内中央
に堂々と立つエド
ヒガンの巨木だ。





▲写真 E-033 ^{うき}宇木の^{ちとせざくら}千歳桜

昭和3年天皇陛下御大典を記念し、「宇内万邦観喜」の中から、宇木にちなんで「宇木の千歳桜」と命名された。樹下に記念の石柱がある。



▲写真 E-034 ひょうたん桜

エドヒガンは萼の部分が膨らんで、つぼみの頃にひょうたんの形に似るため命名されたという。谷間を見下ろす絶景の地に立っている。



▲写真 E-035 ^{こま}駒つなぎの^{さくら}桜

源義経が奥州に下る時、この桜に馬をつないだと伝えられることから、駒つなぎの桜と呼ばれるようになった。ライトアップで水田に写る姿が美しい。



▲写真 E-036 ぜんまい桜

ぜんまい桜とは奇妙な名前である。ゼンマイが出る頃に満開になることから、地元の人々がそう呼ぶようになったという。



▲写真 E-037

^{さくらまるごでんあと}桜丸御殿跡の^{みょうとざくら}夫婦桜

エドヒガンの枝垂品種とエドヒガンの合体木で、大変珍しい桜である。シダレザクラは地上1mで二分岐し、主幹内部は空洞化しているようだ。エドヒガンの主幹は地上3mで三分岐し、背後から見ると皮一枚で持ちこたえ、こぶが多く、苔むし、古木の風格がある。



▲写真 E-038

^{ひつぽ}筆甫の^{しんのうざくら}親王桜

建武2年(1335)陸奥守・北畠顕家が義良親王(後醍醐天皇第八皇子)を伴い、この地を訪れた際に植えたといわれる。



◀写真 E-039

^{さがりかやみょうじん}下蚊屋明神の^{さくら}サクラ

集落のはずれにある明神様境内に立つ。(写真・Web画像)

写真 E-040▶

^{ひらた}平田の^{ばばざくら}馬場桜

蓬田と鴛子の村境にあり、馬の爪切り場として利用され、この馬をつないだ事が由来する。





写真 E-041 ^{うんぼうじ さくら} 雲峰寺の桜

地元では「峰の桜」と呼んでいる。雲峰寺は中里介山が「大菩薩峠」を執筆した寺として知られている。地上2mで2分岐する樹形で、南幹はさらに3mで2分岐し、分岐幹はそれぞれくねるように天高く立上がる。主幹が見事である。



写真 E-042 ^{すざくらじんじや じんだいざくら} 素桜神社の神代桜

巨木DBの幹周が11.3mとされるが、分岐幹の合計周か?。樹齢1200年ともいわれ、神話が伝えられるが、実際は巨大な桜ではない。M式では、株周5m程の桜である。



写真 E-043 ^{いしべざくら} 石部桜

戦国時代までこの地を支配していた芦名氏の家臣、石部氏の屋敷があり、桜はその庭に植えられていたものと言う。根元で多数に分岐している。



写真 E-044 ^{こながいし こまざくら} 小長石の駒桜

傾斜のきつい斜面に立ち、ここで馬を返したことから駒桜と呼ばれるようになったといい、古くから八幡太郎の「駒止の桜」伝説もあるという。大字から、「秋山の駒桜」とも呼ぶという。



◀写真 E-045 ^{むかいの} 向野のエドヒガン

根元より7分岐し、うち一本は切断され、3本が立上がり、3本が川に向かって水平に伸びる。巨木DBの幹周11.4mは7本の合計周。この桜の特徴は、樹種がエドヒガンだが、オオヤマザクラのように花の色が濃い。

写真 E-046▶ ^{おぬか ようがいざくら} 小奴可の要害桜

小奴可駅の南西700mの小高い丘に亀山城址があり、ここの館跡と伝えられる一角にエドヒガンの巨木が立つ。城址にあることから要害桜と呼ばれるようになったという。





▲写真 E-047 かねだに じょうざんざくら
金谷の城山桜

金谷集落を見下ろす高台に立つ。1423 年頃、入船山城跡の出丸部分に植えられたと言われている。
(写真・Web 画像)



▲写真 E-048 きたごうはやさか あずまひがんだくら
北郷早坂の東彼岸桜

北郷早坂の天満宮の境内に立つ。
(写真・Web 画像)



▲写真 E-049 だいにちさん さくら
大日山の桜

1685 年、この地に大日堂を建立した際に植えられたという。
(写真・Web 画像)



▲写真 E-050 かすがしんめいじんじゃ ひがんだくら
春日神明神社の彼岸桜

この地は春日神明神社の神域で、近くに社は無い。集落側の主幹内部は空洞化し、太い不定根がむき出しになって、荒々しい雰囲気のある桜。



▲写真 E-051
本村の関の桜



▲写真 E-052 わにづか
王仁塚の桜

日本に数ある一本桜の中でも、これ程眺望の素晴らしい場所に立つ桜を他に知らない。東に富士山を背景に立ち、西に八ヶ岳を背景に立つ。王仁とは、塚の形が神社等にある鰐口に似ていたためという。



◀写真 E-053 べっしやま
別子山のエドヒガン
(写真・石田徹)



写真 E-054▶
細越の種まき桜
(写真・Web 画像)



▲写真 E-055
下條の普賢蔵ザクラ
(写真・Web 画像)



▲写真 E-056
馬ノ墓の種蒔桜
(写真・Web 画像)



▲写真 E-057
行田の彼岸桜
(写真・Web 画像)



▲写真 E-058
あたご せいしゅうざくら
愛宕神社の清秀桜
かつて巨大な桜であったが、現在は半壊している。



▲写真 E-059
下久保のエドヒガンザクラ
(写真・石田徹)



▲写真 E-060
諏訪山の桜
(写真・Web 画像)



▲写真 E-061
高田桜
(写真・Web 画像)



▲写真 E-062
やまつまり
山妻有のサクラ
1mで5分岐する樹形である。根元が腐食し始めている。



▲写真 E-063
相俣のさかさザクラ
(写真・Web 画像)



▲写真 E-064
お達磨^{だるま}のサクラ A 株
(写真・Web 画像)



▲写真 E-065
お達磨のサクラ B 株
(写真・Web 画像)



▲写真 E-066
鳥谷脇^{とやのわき}の桜
実に見事な古木である。
(写真・Web 画像)



▲写真 E-067
高頭寺^{こうけんじ}の桜



▲写真 E-068
延命地蔵^{えんめいじぞう}の桜



▲写真 E-069
女形谷^{おながたに}のサクラ
主幹は老いているが、花付きはまだ
健在である。



▲写真 E-070
石戸蒲^{いしとかぼ}ザクラ
ヤマザクラとエドヒガンの雑種で、かつて4本あ
ったが、現在は一本のみ。根元で分岐する樹形。
(写真・Web 画像)



▲写真 E-071
北館^{きただてざくら}桜
阿部一族の館に、南蘇坊が植えた
と伝えられる。
(写真・Web 画像)